

高齢者スポーツにおける救護体制の構築とファーストレスポonder人材育成について

坂梨 秀地, 樋口 敏宏, 植田 広樹

保健医療学部救急救命学科

はじめに

本学が位置する南丹市では、65歳以上の高齢化率が年々増加しており、健康寿命対策の必要性から、ブランディング事業として「健康寿命を目指した大学主導による総合型健康・スポーツクラブ構想」を掲げた。したがって、運動・スポーツを行う環境を提供するには、安心・安全に行うためのサポート体制の構築が必要であり、高齢者スポーツに起きやすい事故・ケガなどを把握し、それに対しての方策と、サポートする関係者の人材育成プログラムが必要である。

目的

高齢者スポーツにおける救護体制の在りかたと、「ファーストレスポonder」の人材育成のための教育プログラムを構築することを本研究の目的とする。

方法

研究1：高齢者スポーツにおける救急搬送事例および心停止症例の検討

2015年の救急搬送データおよび2010～2014年院外心停止データを用いて、高齢者スポーツに起きやすい疾病・ケガおよび心停止について検討した。

研究2：救護体制の在りかたと、ファーストレスポonder育成プログラムの検討

研究1結果および先行研究から、本学と連携可能な救護体制の在りかたを考案し、そのための人材育成プログラムを提案する。

結果

1年間の救急搬送データより、事故種別「運動競技」で搬送された件数は35,010件であり、そのうち65歳以上の救急搬送された件数は1,174件(3.3%)であった。発生場所でみると公衆の場997件(84.9%)が最も多く、そのうち公的運動施設(58.5%)、学校施設(11.8%)での発生が高かった。傷病名では打撲血腫(30.4%)、次いで骨折(24.5%)であった。5年間でのスポーツ中の高齢者の目撃あり心原性心停止症例では、61症例あり、非運動時の心停止症例に比べ社会復帰率が74.1%(OR=4.8)と有意に高かった。

まとめ

高齢者スポーツにおいて救急搬送されるものとして学校や公的運動施設での搬送が多く、打撲血腫、骨折が傷病名として多かった。また心停止例では、非運動時よりも社会復帰率が高くその要因として、胸骨圧迫とAEDが実施されていたことが考えられる。したがって、高齢者スポーツの現場には、打撲や骨折等に対応でき、かつ速やかにAEDを使用した心肺蘇生法が実施できる体制が必要である。近年では、多数のスポーツ現場の心停止の報告があり、非スポーツ中に比べ17倍高まると言われている。そこでAEDを持って自転車で巡回する「モバイルAED隊」を導入し、スポーツ中の心停止における救命率が上がった報告もある。また、スポーツ競技団体や施設等に対する調査では、AEDは設置しているが細かい配置までは決めておらず、ケガや熱中症、脳震盪において教育を受けている団体は少なく、スポーツ現場における医療的教育の必要性が言われている。そのため、スポーツ現場においては、心停止をはじめその他ケガや骨折に対応するための救護体制および、それらに対応する「ファーストレスポonder」の育成が必要である。

本研究の結果から、高齢者スポーツにおける救護体制の在りかたと、教育プログラムについて提案する。

【救護体制の在りかた】

- ・3分以内に電気ショック可能な場所にAEDの配置
- ・打撲や骨折、熱中症や内科的疾患に対応できる資器材および搬送資器材の配置
- ・本学の医療学生の活用

【教育プログラム】

ファーストレスポnder教育プログラム(案)		
座学		
項目	内容	時間(分)
オリエンテーション		5
First Aidの重要性と法整備		20
各疾病/外傷に対する基礎知識	バイタルサイン(AVPU/JCS/GCS)、心肺蘇生法(119/救急電話相談#7119)、創処置(止血/挫創)、熱中症、体位管理、捻挫/骨折、脳震盪、過換気など	75
心的外傷の症状と対応		20
	計	120
e-learning効果測定(プレテスト実施)		
実習		
項目	内容	時間(分)
状況評価	二次災害の回避、感染防御、携行資器材、応援要請、傷病者数など	10
初期評価	(頭部保持、ニュートラルポジション)、起動、呼吸、循環の簡易的評価	10
全身観察	主訴に対しての観察	10
心肺蘇生	胸骨圧迫、AED ※人工呼吸(MtoM、ポケマ)、小児	40
創処置/止血法	流水にて洗う、ガーゼ/ネット包帯等で被覆 ※直接圧迫止血	30
捻挫/骨折対応	RICE処置、三角巾でのう腕のつり	40
熱中症	補水、冷却、体温管理(腋窩、耳式体温測定)、WBGT測定	20
SMR	頭部保持、ニュートラルポジション、ログロール、ログリフト、フラットリフト	30
搬送法	徒手搬送、担架搬送、のせ方、おろし方、保温	30
体位管理	仰臥位、側臥位、腹臥位、座位、起坐位、回復体位、ショック体位	20
質疑応答		10
※FBAO	※背部叩打、腹部突き上げ	※10
	計	250
※オプション項目 時間除く		
	合 計	370